

☆私の意見

神戸で

地元の音楽活動を

小石 忠男

△音楽評論家▽



私のところには毎月、京阪神の音楽会の一覧表が二つも送られてくる。ひとつは京都で発行されている「音楽ガイド」、もうひとつは大阪で出ている「音楽案内」である。そのほか本屋では「ブレイガイドジャーナル」という小冊子を買っているのですが、だれでもすぐ調べがつくことだが、たとえば六月の音楽会を見ると、クラシック関係では京阪神で約七十回のコンサートがあるが、そのうちわずかに四つだけが神戸で開かれている。

しかもそのひとつはジョイントの発表会、二つは来日演奏家の会、ひとつは鑑賞団体の例会で、地元の音楽家が自分の抱負を問おうという会はまったくない。それでは音楽家が神戸に住んでいないのかというと、決してそんなことはなく、つい最近、芸術院賞を受賞されたばかりの指揮者朝比奈隆氏をはじめ、多くのすぐれた音楽家が神戸市およびその周辺に居住されている。

しかし、彼らの活動の地は神戸でなくて大阪であるのだ。たとえば同じ六月のデータでいうと、大阪では阪神在住の音楽家のリサイタルが十一回もある。神戸はなしである。神戸にも立派なホールがあるのに、音楽を職業とする人たちはほとんど大阪で演奏する。これはどうしたことであるのか。

答えは簡単である。神戸では切符が売れないし、事後の反響も期待できぬ、といったことだろう。しかし何よりも神戸というまちが外国から文化を移入し、紹介するのはうまくても、自分たちの文化創造に冷淡だというのが最大の理由だ。要するに神戸は音楽家の住む場所としてはよいが、仕事をするには不適當なのだ。

これではいけない。自分たちのものを育てることもできないのに、神戸の芸術や文化が発展するわけがない。事実、かつて隆盛を誇ったアマチュアの団体すら、もはやゆきづまりの状態を感じさせる。それは地元の専門家の活動の場としての神戸を軽視した結果といつてよい。いま、この反省がなければ、神戸市民は音楽会をきくために、いつまでも大阪にかよわなくてはなるまい。



きもの細貨

おんがら屋

神戸 本部・仕入部 電話〇七八四五一五二九〇 (代)
本 店 神戸市東灘区青木五丁目一五〇一
さんちか店 市街地改造により工事中 昭和五十二年未成予定
神戸市生田区三宮町一丁目一 電話〇七八三三三一一七〇〇

東京 銀座コア店 東京都中央区銀座五丁目八二〇 電話 〇三五七三二五二九八 (代)

渋谷東急店 東京都渋谷区道玄坂二丁目二四一 電話 〇三四七七三三〇九 (直)

日本橋東急店 東京都中央区日本橋通二丁目九二 電話 〇三二二一〇五一 (代)

池袋バルコ店 東京都豊島区南池袋一丁目二八二 電話 〇三一九八七〇五六一 (直)

(四階きもの小路)

●HAIR●LIFE●

パーティへお出かけ

高田 優子さん



高校生のお嬢さんのパーティスタイル
クールで、キュートなヘアーです。

美容室 井上

井上 繁和 / 井上 カネ子
神戸市生田区多聞通 4丁目9番地の1
多聞コーポラス1F TEL 078 (341) 1110
午前 9:00~午後 6:00 (月休日)

随 想



え・山川勝彦

愛 海への

沼田美紀子

△田辺製薬樹貿易事業部業務部業務第一課
付課長・関西ヨットクラブ事務局秘書▽



私がヨットを恋人とし、海を憩いの場としての生活を始めてからもう何十年になることだろうか。毎年季節にかかわりなく西宮のヨットハーバーで週末を過ごすのを常とする私にとって、海以外に訪れる所を知らない。

なぜ、どんな動機でヨットが好

きになったのかとよく尋ねられ、そのたびに私はその返答にとまどってしまふ。理由など何もない。ただ海が好きだからの一言につきる。そこは生存競争もなく、利害関係もなく、また年令にも関係のない自然を愛し、自然にとけ込もうとする者の集いである。私は多くのヨット仲間と出会い、そこには国境を越えた美しい人間関係が生れ、現在も続いている。

海は従順であるがいきさか移り気でもある。そして一度怒り始めるとその止まる所を知らず、人間の力で制御出来るものではない。そこでヨットを愛する者にとって一番大切なことは「海を知る」ということではないだろうか。

四月末から五月にかけて経験す

る春一番は、我々にとって最も注意を要し、従って出航の際のキャブテンの慎重な気象のチェックが大切になってくる。太陽の照りつける真夏のセーリングは豪快であるが、時として夕立に悩まされる。短時間ではあるが、予期もしなかつた雨雲が現れ、急に20m位の突風が吹きつけスコールが始る。今までのんびりセーリングを楽しんでいた全員が総立ちとなって、エンジンを開始し、セーラーを下し安全な航海への処置をとる。私は十月の海が好きだ。何故ならそこには澄み切った空と公害のない美しい静かな海原が果てしなく続くからである。ひやりとした秋風を肌を感じながら、パウに白波を受けてのセーリングは経験した者でないとは分らない醍醐味があり、時には釣糸を下していると思いがけず魚がつかれてこれがまた楽しい。

私の所属する関西ヨットクラブでは毎年五月、八月、十一月に洲本または白浜方面にクルージングに出かけるのを年中行事にしているが、快適なスピードで走る艇のデッキでの食事、そして港に入つてアンカーを下し、一息入れた時のコーヒーマーの味は、また格別である。

私共の愛艇「すくらっぶ」は宮川船長を中心に自分達の手で作った。ささやかな台所、バス、ト

イレがあるが、暑い夏の日に皆で楽しかった航海の話などしながらデッキでたべる冷ひやそうめんは味はたとえようもない。冬には石油コンロを囲んでビールを飲みながらのすき焼の味も忘れられない。山程あつた野菜もすぐに残り少くなり、私は追加の材料作りに追われるのである。瀬戸内海の美しい景色を眺めながらの手料理の味はクルージングには欠かせないが、今流行のインスタント食品の嫌いな私は、クルージングに行くたびに献立に悩まされ、それがまた楽しみの一つでもある。

しかし私は一級小型船舶操従士そして無線電話甲の免許を持ってゐるのだ。食事の時間が終れば、時には舵を取り、無線で陸と連絡をとり、港に近づけばジャンパーに身をかため入港の準備のためデッキに立つのである。

愛なき人生は随落なりという言葉があるが、海ほど純粹な愛の対象になるものはないと思う。その愛は私にとってはヨットを通じて始めて達せられるといつても過言ではないだろう。生活の中において海とのかかりあいが続けながら、ためらいもなく海を愛し続けるといふことは、ブラック・ホールの多い人生にとって何にかえがたい明日へのエネルギー源ではなからうか。

グレ釣りの私の人生

林 利男

△兵庫トヨタ自動車廠
明石営業所所長V



釣り場に恵まれた神戸っ子の春のフナ釣りに始まり、夏から秋にかけてのキス、ペラ、アジ、そして冬場にかけてのカレイ釣りが一般的なパターンである。私も学生時代から十年前程まではそうであったが、今ではグレ釣り一本に変わってしまった。

私の第二の故郷でもあり、日本で最高の磯釣り場でもある高知県の沖ノ島は、いい表わせないほどの魅力ある釣り場である。今年のゴールデンウィークも五日間連続のグレ釣りをやってきた。黒潮の流れる豊後水道の海は紫色、水深十五mぐらゐまで透き通った水、マキエサによって集まってくる魚は、グレはもちろんイサギ、ブダイ、季節によってはブリ、ヒラマサ、シマジ、フエフキダイなど数えきれない種類と大群は一度訪れた人でなければ想像できない魚の

宝庫である。

「見える魚は釣れない」とよく聞かされるが、ここでは魚が見えないと釣れない。いかにしてマキエサを上手にまき、魚を水面に浮かし、磯際近くに寄せて釣るかがグレ釣りの秘訣である。洋々とした水面に浮かぶ小さな浮木が一瞬水面から沈んだ時、腕にこたえる強烈な重み、グイグイと弓なりになった竿を押え込み、リールがキイキイと空回り。姿勢を低くして力一杯引き寄せ、二、三十分かかって魚をとり込む技術は、他の魚では味わえないグレ釣りの醍醐味である。釣り方次第でその日の成果がこれほど大きく左右される魚も珍しい。そのため暇があれば竿に、浮木に、仕掛けに、小さな道具一つにも細心の注意を払って準備する。

冬は厳しい季節風、夏から秋にかけての台風シーズン。海が荒れば巡航船はすぐに欠航する。しかし、大物グレが一年中釣れる場所はこの沖ノ島以外あまりなく、悪条件にもかかわらず何度も訪れる人が大勢いる。私のグレ釣りの先生でもある垂水区にお住いの田中一三さんは、なんと一カ月のうち二〇日間は沖ノ島でのグレ釣りをしておられる。最近人から職業は？ と聞かれると「魚釣りだ」と答えておられる。全くうらやま

しい限りである。

沖ノ島は、海はもちろんのこと景色も美しい。そのうえ魚も新鮮で美味しい。そして私が虜になっているもうひとつに、島の人の人情味がある。私たちがよくお世話になる沢近旅館のおやしさんは、魚が釣れなければ納得のいくまで何度も磯替りをしてくれ、釣れるまでやらせてくれる。商売ぬきのいたれりつくせりのサービスマスターである。

時代の変化とともに、釣り方、道具も少しずつ変わってきている。しかし名人といわれる人でも身技一体とならなければ魚が釣れないのは今も昔もかわりない。暇をみつけては沖ノ島でのグレ釣り、知らない人が聞けば気違いというかもしれないが、私にとっては働くための釣りであり、日頃のストレス解消の釣りである。一年のうち一カ月を沖ノ島での魚釣りを目標にし、そのために仕事を頑張る。当分私の頭の中からグレ釣りは離れない。

釣りには自然がある。雨が降ろうが風が吹こうが、釣りようが釣れまいが、グレを求めてグレを釣りに行くのが私の人生だ。

キラキラ

海中の景色

松田 稜

△高校教師▽



初めて海底の景色を見たのは、私がおおよそ小学校四年の頃だった。親に無理をいってスイムフィン（足ひれ）と水中メガネ、そしてシュノーケルを買ってもらい、一人で海へ出かけて行った。その頃はまだ今のように道具を使っていたので、足ひれやシュノーケルはごく限られた玩具屋にしか売っていなかった。私が足ひれと水中メガネ、そしてシュノーケルを手にして喜んでいと兄貴たちによく笑われたものだった。

当時の海といえば、苜屋か香炉園の海水浴場へよく行ったものでそこには、今のように汚染されていない青く澄んだ海が広がっていた。香炉園の海水浴場の東に防波堤があり、そこで一人海の景色に見とれていた。海面を蝶のように羽根を広げて泳ぐとび魚の子供たち、岩の間を縫って泳ぐ小魚の群れ、そして青い水……以来すっかり海の魅力にとりつかれてしまった。しかし、誰も正式に潜り方を教えてくれる人がいなかったの

クストー（フランスの海洋学者でアクアラングを考案した人）の書いた「海は生きている」や「青い大陸」などを何度も読みかえして参考にした。

海、それは上から見るとただ広い鏡のようなものだけれど、水中メガネでちよっと覗くだけで、そこにはまるで別世界が広がって行く。それは自然が造った地球上で最も美しい景色の一つだろう。いつだったか、友人二人と私、三人で隠岐へ行つて一週間程キャンプをした。朝早くから夕方まで、海面と海底との間をまるでぼうふうのように行ったり来たり、素晴らしい海中の景色に夢中になっていた。陽も傾きかけた夕暮れ、海底から上を見ると太陽の光に反射して小魚の群れが金や銀にキラキラと輝いていた。あの美しさは今も忘れることができない。

黙々と行進するほら貝の大群、砂の中から眼だけ出してこちらのようすをじっとうかがう座布団ぐらゐの大きな平目、夜、水中ライトに照らし出されてキラキラ光るイカ、そして眠そうにポヤーツとした顔つきのフグ……潜る場所、時間、季節などによっていろいろ変化する海。今年の夏はひとつ外国の海にでも出かけてみようか。きっと素晴らしい海中の記念写真ができることだろう。

★ある集いその足あと

カナディアン

アカデミー

日本文化研究会

安原 正子

△中高等部図書司書▽

私どもの学校カナディアン・アカデミーは、約六十年前にカナダ人宣教師によって始められた私立の国際学校で、現在二十三カ国、三才から十八才まで約四百五十人の子供達が通っています。両親の仕事もビジネスマンから、外交官と様々ですが、共通していることが一つだけあります。日本のことをあまり知らずに赴任してきていること、また、知る機会もほとんどないという現状です。

「私は十年近くも神戸に住み、



研究会での熱心な表情 (中央がクリッセルさん)

少しずつ知識を持つことができ、友人達も日本を理解する上で大きな助けになってくれています。この少しばかりの知識を皆と分け合い日本を少しでも好きになってほしい。」これが本校の英語部長ドクター・クリッセルをインストラクターとし、五年前に始まったこの研究会の発足理由なのです。決してアカデミックな研究が目的ではなく、日本へのオリエンテーションが私達のねらいなのです。スケジュールは、新年度の始まる九月から翌年の六月までを十週間ずつの三期に分け、週に一回火曜の夜二時間、学校の図書室で開いています。内容は一年間連続したテーマ、例えば、一期から三期まで時代順に勉強する場合と、一期毎に全然ちがったテーマを取り上げ美術関係だけだったり、一人の作家

の集中的研究をしたりもしました。

テーマはできるだけ研究会全体の希望にそったものとしていますが、今まで特に評判がよかったものに「三島由紀夫研究」、「いきとは」等があります。

やはり方は主に古代から現代までの

文化の流れをおって、歴史的背景、文学、美術、社会問題、習慣等、多方面わたる一般的知識を基礎にして講義を進め、参考文献は図書室にある約六百冊の日本関係のコレクションからリストアップし、各自が自由に知識を深められるように準備しています。集まる人の国籍は主にアメリカですが、イギリス人、フランス人、ドイツ人、中国人と豊かで学校の父兄だけではありませんし、英語の勉強もかねて日本人も参加して講義の補助をしたり、思いがけない質問に答えたりして理解の手助けをしています。講義の内容によっては専門家を招いたり、時には映画鑑賞に早がわりしたり変化に富んだコースにと工夫しています。来日以来四年間続けてメンバーになったアメリカの婦人は、帰国前に「やっとならずに解ってきました。」と喜んでいました。おそらくその後彼女は勉強をやめていないでしょう。どんな形にせよ、研究会で得た日本への興味を持ち続けてほしいと願います。今後は、特に日本人の参加を多くして、意外と知らない自分の国のことを、他の多くの国の人の意見をもまじえながら、少しでも鮮明なものにし、又ひいては、この集りをささやかな国際親善と理解の場にしたたいと大それた予定をたてています。

いつもさわやかに。



あなたの ファッションを FRESH UP !

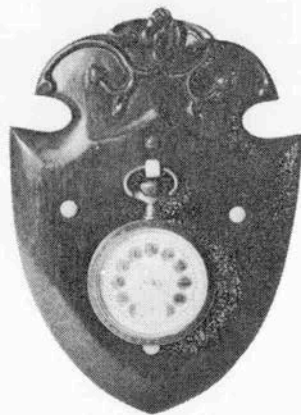


〈営業品目〉

- 高級服に………スペシャルクリーニング
- ゆきとどいた…スタンダードクリーニング
- 雨・シミをはじく………リペール加工
- ぬれない・汚れない…スコッチガード加工
- 消えない折目プレス…エパークリース加工
- 出張サービス……カーペットクリーニング
- 毛皮・皮革・キモノ類…高水準クリーニング

本 社 神戸市灘区記田町1-2
TEL. (078) 851-2440 (代)
山手店 三宮店 熊内店 宝塚店

美術 骨董 古 剣 刀 画 書



懐中時計(フランス17世紀、鉄側)

¥ 135,000

鑑定 買入 刀剣研磨その他工作

一カ月仕上 是非ご用命下さい

神戸市生田区元町通6丁目25番地

刀 剣
古 美
骨 術

元 美 骨 董

〒650

TEL078-351-0081

□れんさい随想／最終回

神戸との訣別

— 関西学院と神戸 〱 6 〱 —

久山 康 〱 関西学院院長 〱

え・石阪 春生



ベイツ院長

関西学院が大学昇格を目指して広い校地を求め神戸から西宮北郊の甲山の山麓に移転したのは昭和四年であるが、この神戸時代の終りの頃、個性豊かな人々が文学専門部や高等商業部から輩出した。神戸新聞の社長光田顕司氏は文専社会学部昭和四年の卒業であるが、二年上級の英文学科には詩人の坂本遼氏と竹中郁氏があり、一年上級の高商には吉原治良氏と十河巖氏がいた。

坂本氏は朝日新聞社に勤め、社会部、学芸部の部長、論説委員を歴任した人であるが、詩人であり児童文学の推進者でもあった。その詩の敬虔素

朴な暖かさは人の心を打たずにはおかないが、農村の母を詠った詩はことに優れている。「春」という詩がある。「おかんはたつた一人 峠田のてつべんで鉄にもたれ 大きな空に 小ちやいからだを びよつくり浮かして 空いつばいになく雲雀の声を ちつと聞いてゐるやうで 里の方で牛がないたら ちつと餘韻に耳をかたむけてゐるやうで 大きい 美しい 春がまはつてくるたんに おかんの年がよるのが 目に見へるやうで かなしい おかんがみたい」「日向」という詩もある。「お母^おんはなみだして 日向につくな

んで ねむり草をたいた。おら どこやらに
神様があると思ふ」

それらは『たんぼ』という詩集に収められた詩であるが、草野心平は序に「彼は地上に天国をひきずらうとする一つの真摯な魂である」と記している。坂本氏の詩碑が最近生家の近くである東条のインターチェンジの傍に建ったことは、新聞の伝える通りである。

竹中郁氏が神戸にふさわしい洗練された潇洒たる抒情詩人として、神戸の人々に敬愛され、今日も活躍されていることは周知の通りである。吉原治良氏は吉原製油の社長であるとともに、前衛画家として名を馳せた人であるが、十河巖氏も前衛的な画をよくするとともに、詩に随筆に巾広い活躍をされている。この人は朝日新聞社に勤め、敗戦直後大阪の朝日会館々長として芸術運動の再建に貢献した人であるが、学院で高商に在学しながら筋違いの芸術に心を燃やしていた。そのため高商から文専への転学を願ひ出たが、当時そういう制度がなかったので、親しかった河上丈太郎先生がベーツ院長に特別に懇請された。ベーツ院長は十河氏がどのような勉強をしているのかその業績を見た上でと言われ、提出された沢山の原稿を河上先生が持参すると、その一つを読んでくれと言われ、河上先生はその一つを読み始められた。ところがそれが熱烈な恋愛の詩で、河上先生も真赤になられて読み進めることができなくなり、遂に転学は沙汰止みとなったという逸話も残っている。この十河氏を中心に昨年六月には学院の美術研究グループ「弦月会」が創立六十周年記念の美術展を、近代美術館で開いたが、学生四十一名に

OB八十一名が参加して盛大であった。

関学が西宮へ移転したのは、大学昇格のためであるが、当時大学昇格熱は日本全国に燃えひろがっていた。というのは大正七年に、官立のほか公立、私立の大学を認可する大学令が公布され、早稲田、慶応、明治、中央、同志社など、多くの学校が大学に昇格したからである。関学でも学生、教師の間に大学昇格への熱望が生じたが、そのためには広い校地と完備した設備、それに少くとも百万円の基金が必要であった。それを米加両ミッシオン・ボードに期待することはできなかった。そのため大学昇格には都市化の進んだ上筒井の校地を売却して移転するより方法がなかった。

この移転を可能としたのは阪急電鉄の社長、小林一三氏の協力であった。小林氏は上筒井の校地二万六千坪と建物二千五百坪を三百二十万円で買収し、西宮上ヶ原の七万坪の土地を五十五万円で譲渡した。学院はそこに百六十万円で六千坪余の建物を建て、百万円の基金を作った。こうして昭和七年には待望の大学設立の認可を得、九年から法文、商経の二学部をもつ大学を開設したのである。

関西学院は移転当時学生、生徒の数は二千に足りなかったが、今では一万六千を越えている。学院は戦後の高等教育の波に乗り、かなりの発展はしたけれども、私は学院はこれからの学園だと思っている。いま百周年を十三年先に望んで、躍進のための長期計画を検討しているけれども、神戸で生れた学院は、少しでも神戸に役立つ学園になりたいものだと思っている。

宝塚、スター誕生

内海 重典

△宝塚歌劇団演出家▽

何年目かにいちど、スターが大挙してやめてゆく。新聞や雑誌に、スターを一度に失ってどうなることだろうと紙面を賑わしているのが宝塚歌劇である。

なるほど、劇団内では一応その後の策について少しはあわててはいるものの、別にその会議を持つ訳ではなく、お互に作者がそれぞれ自分の作品を通じて新しいスターを生むことに懸命の努力をはらっていく。

淀かほる、明石照子、寿美花代たちの男役スターがやめたのも、ほとんど同時期だったと記憶する。その頃、阪急電鉄の社長だった小林米三氏が———どうだろう、やめて結婚しても宝塚の舞台は出ても良いという制度に変えるべきでないだろうか———と私たち理事を集めて相談を持ちかけられた。ということとは、宝塚は結婚しても舞台をつづけられるところになってもいいのではないかというご意見である。私たちは速座に反対をした。次のスターをすみやかに作ってみせますから、宝塚の伝統をかえることだけは受けられませんと———

小林社長は、ただひと言「そうですか」と、ご自分の意見を引込ませて下さった。

社長の言葉から想像してみると、社長には始めからそういう気持ちは毛頭もなかったのである。ただ、次のスター作りがおくれているところからそのお叱りをそんな風な表現でなさったようであった。

故里明美、藤里美保、内重のぼる、那智わたる———と次代のスターが育ったのはそんな意見が出てまもなくであった。

そのスターたちもやめて生れたのが、真帆志ぶき、古城都、上月晃など———そして現在の鳳蘭、汀夏子、榛名由梨、大滝子、安奈淳とつづいている。今はもっとも男役スターの豊富な時ともいえるのである。

名も無い頃の上月晃が舞台に出て二年目のときである。ショーの稽古場で多勢の中に交って踊っているとき、後ずさりする振のダンスで一番端にいた彼女は、稽古場の椅子にぶつかって転倒してしまった。直ぐには立ちあがれないほどのぶつか



宝塚のスターたち。左より橋名由梨（バラのタンゴより）、真帆志ぶき（ザ・スターより）、鳳蘭（ゴールデンサウンドより）

りようであった。休んでいるように命じて、もう一度そのダンスをくり返そうとすると、彼女は立ちあがって足を引きながら「やります」といつて来た。

根性のある娘だなあーと私は思った。そして次の公演でばってきを試みることにした。集合し

てその場で渡した本よみである。彼女のセリフはまるっきりの熊本弁でどうにもならない。相手役をする生徒たちがおかしくって本もよめない——私は、これは大変な失敗をしたと、本人に「明日、今日のような本のよみ方なら役から降ろす」といつて稽古を終えた。

あくる日、二度目の本よみは、見事なものだった。立派な標準語でみんなを吃驚させた。あとから聞くと、その夜は直ぐ演劇を教えている女性の先生のところへ飛んでゆき、徹夜でナマリを直して貰ったとのことだった。

こうしてばってきに見事に答えた上月晃は、スターの座を獲得した。

真帆志ぶきは、いつどんなときに命じられても自分についていた代役は立派にやりとげることができた人だった。藤里美保も内重のぼるも足の爪がはがれて、足指に血をにじませてダンスの稽古を人の倍はしていた人だった。

みんなそれぞれ歯をくいしばって自分のありったけの根性でぶつかって、スターの座を得たばかりである。

宝塚音楽学校は、二年間にそんな根性をたたき込んでいく。そして、華やかなステージに立つ宝塚歌劇団の生徒となってもその精神は失っていない——。

そんな生徒達によって作られている舞台上、スターがと切れることは考えられない。これから宝塚にスターは誕生してゆく。今に日本の演劇界の女優陣は宝塚の出身者でうずまるのではないだろうか。



ファッションは生活の ゆとりのなかから生れる

厳しいお客さまが育てた神戸のファッション

芦原 博之 △サノヘ専務▽

芹沢 利雄 △セリザワ社長▽

本誌が発刊当初から探究しつづけてきたものが、「神戸らしさ」の文化の発掘であった。文化を即生活とみると、神戸に住む人々のライフ・スタイルこそ、神戸文化である。この神戸らしさを、さらに色どり、楽しくしていくことは、まさに「文化開発」そのものではなからうか。

「ファッション都市・神戸」はそのような環境のなかで思っている。

そこで、ファッション都市・神戸の本質的な理解——神戸らしさの開発の一助にと、キャンペーンを繰りひろげることが、本シリーズの趣旨である。

今回は販売の第一線でお客さまと接している専門店の方々にお集りいただき、神戸ファッションの動向やファッション都市づくりへの提言をお願いした

松谷富士男 △ベニヤ社長▽

砂川 松枝 △デザイナー、オートクチュール・カセット▽

★神戸ファッションの育った背景

芦原 「神戸ファッション」ということをよくいわれるのですが、では、神戸ファッションは何ぞや、といわれると、正直いって、たとえば、神戸人形のように昔からあったような形ある決定版というものは何一つないわけです。ただ、幸い神戸は港町で、昔から外国人が多いし、観光船とか色んなものが外国から絶えず入って、外国との交流は神戸が横浜かといわれていたぐらいで、そういう面からは流行は神戸、横浜あたりから流れていたと思います。我々も先代からのいわゆる唐物屋時代から舶来ものを手掛けて来ているんですが、戦前はとにかく舶来ものといったら何でもかんでもいいというイメージが強かったんですね。戦後も横文字の商品には皆さんは弱いということはいえるんですよ。ただ、弱いかからということだけじゃなしに、我々は絶えず新しい商品を

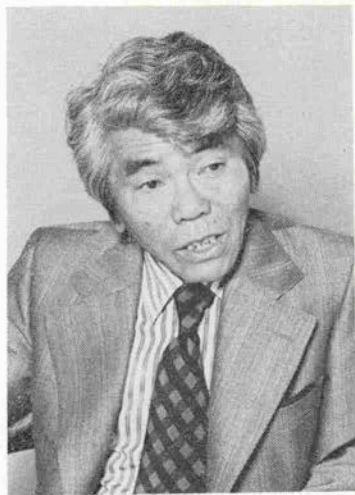
こちらへ紹介するという役目で今までやって来たんですね。したがって、今、神戸のファッションは何かといわれたところでこれがそうだとい切るものは何もないと思います。ただ、我々が子供の頃から色んな外国の人やものを見て、自分らが自然に身につけた選択眼で選んだ商品が神戸のファッションじゃないかと思えますね。取り立ててこれだということはないと思うんですが、ただセンスのよさということとは自分たちが子供の頃から色んなものを手掛けて来て、知らず知らず身につけたもので、それが一つの神戸のファッションとなって出て来たのじゃないかと思えますけど。

芹沢 神戸は、昔は居留地がありまして、外国人が住んでいて、外国人の家庭とかそういう環境に神戸の人たちは慣れて、早くから本物のファッション感覚を吸収する力の出来る恵まれた環境にあったといえますね。それともう一つは、自然環境といえますが、山と海とが近いという環境のなかから神戸らしさというものが何となく出て来たわけですが、果してそれは何かということこれだといえるものはないわけですね。ただ、いえることは、東京のようなマス・ファッションではないということ。そして、神戸の方々は非常に個性的であるということ。それにふさわしいものが神戸ファッションとして今後も伸びて行くだろうと、そんな気がしますね。もちろん店が非常に確かであるということ、本物志向といえますが、そんななかで輸入品もあるということ、また、私共、ブティックの選択眼といえますが、商品選びが厳しいということ、これはお客さまからそういう眼で見られているのですから、そういう面からも個性的でなければいけないわけですね。

松谷 徳川時代からだと思うのですが、財閥というものが関西にありまして、今は中央集権で東京へ移っていますが、そういう歴史からひもといて行きますと、そういう財閥の方々の家族の買物は、大阪へ出るよりも何となく冷静に判断の出来る神戸の方が好まれていたんです

ね。緑があり海があり港があり、非常にいい環境があって、何か本物らしいものがあるというムードづくりが出来ているなかで買物をしに来たがるという、そういう自然環境が今日の神戸のファッションをつくり上げたのではないかと思えますね。お金持ちのたくさんおられた関西での買物が昔は神戸でされたということが、神戸のファッションを高級化したと思えます。それが、神戸のファッションは個性がある、流行にすぐにとびつかないということにつながるわけですね。伝統がある、自負心があるから流行に左右されなくて本当にジツクリと見つめて、自分に合うものしか買わないという現状になったと思います。いいかえれば、小使は少ないが、少ないながらもいいものを買おうという苦労が今の神戸の女性に非常に見られるのじゃないかと思えますね。そういうことを考えて行きますと、神戸はファッションについては非常に冷静に判断をする、そういう厳しさがあって、非常に洗練されたものが生まれてくる。我々業者もそれに呼応して、厳しさのなかにいいものををつくり上げる、いいものを仕入れて、いいものを売って行く。厳しさのなかからいいものが生まれて来るという神戸のファッションのよさがあるのじゃないかと思えますね。東京や大阪はお客さまも多いし、つくついたらすぐ売れるという環境で売られていますから、ファッション、ファッションといながらも何かうわつすべりなファッションですが、神戸では根強いファッションがつつかわれていることが一番いいことだと思いますね。

砂川 私は最初からブティックを経営していたのじゃなくて最初は洋裁を教えていて、そのうちに自然とこういう仕事に入ったんですが、神戸をズツと眺めていましてこれといったはつきりとしたものはつかめないんですが、ただ、今おっしゃいましたように生活環境のなから、そういう階級の人たちが今の神戸ファッションをつくれたのじゃないかということとはよく分りますし、そうだと思います。ただ、私が今、仕事をしている関係のこと



芦原 博之さん

なんです、こういうものをつくり出して、こういうもの

のを広めて行こうとか、今、マスコミでこういうものが注目されているから、それを売ってみようとかいう考えは毛頭ないんですね。本当にいいものは何かということ掘り下げて考えまして、素材から選んで、流行性はあんまりなくて、現代の色彩感覚で単純なデザインをしているのですが、それが氾濫しているファッションのなかでマスの商品にない味が出て来ますね。それが神戸の人に割合と喜ばれるということで、神戸の人は贅沢な感覚を持って育ってらしやるのじゃないかなと思います。それに一ぺんにたくさん求められることはないですね。ただ、絶対にこれはいいというものを一点一点、楽しんで



松谷富士男さん

でお買になる。これも非常に贅沢なことだと思わんです。これは神戸の土地柄だから大事にして行かないやならないと思えますね。それと、最近特に思うんですが、町が非常に汚なくなっていますでしよう。クルマも多いです。町の環境というものがファッションと一体になって行かないと、これからの神戸のファッションは考えられないのじゃないですか。新神戸駅から人が降りて来て、神戸のファッションを、町全体のファッションとして見てくれるようになってくれたらいいのじゃないかなあということを考えているんです。そういうことが広がって行つて、初めて神戸というファッション都市が生まれると思います。

★混乱している町づくり

松谷 私が一番気になっていることは、役所が行政面から神戸ファッションというものを盛りたてようというのは、その気持ちはよく分かるんですが、それがまったく交通整理もせずに建物をつくって、容れ物さえつくった業者がたくさん入って来て、神戸のファッションは榮えるんだという単純な考え方でどんどんビルを建てられるということがどうも腑に落ちないですね。もう少し、ここにはこういうゾーンをつくるというケジメをつけてファッション・ゾーンをつくって行かないと、家主的、不動産屋的なビルの建て方をされたら、町は混乱状態になりますね。それで店が自然淘汰され、残ったものが神戸ファッションだということになるのかなあ……。(笑)

芦原 そうですね。三宮あたりは大変ですね。町づくりどころじゃないですね。ビルを建てても神戸の店が入るかというところじゃない。テナントの大半は東京あたりから引つ張つて来る状態でしょう。ファッション都市ということを神戸市が唱っていたのならば、これは少し飛躍しすぎなのですが、神戸に空港が欲しいですね。今までは港があったんですが、今は空の時代で船は荷物ぐらいになって来てるでしよう。未来の神戸ということ



芹沢 利雄さん

考えていただくのだったら、神戸沖に空港をつくって欲しいですね。それがファッションとか、色んなものにつながって行くと思いますね。神戸がこれから栄えるには空港が必要だと思えますね。

芹沢 確かに情報産業の時代ですから、情報の先取りということでは空港が玄関口ですからね。

松谷 以前、三宮にプリンスホテルが建つという話もち上がり、結局、反対があつて出来なくなつたというところで、そういう公共施設が出来ないと、ファッション都市といつても、そのファッションの芽生えるところがつまれて行っている感じですね。

芹沢 ファッションとホテルとの関係は非常に密接だと



砂川 松枝さん

思いますね。パーティとか、ファッションの見せ場が必要ですからね。いいホテルが欲しい、空港が欲しい。そういうものとファッション都市とは切り離せないと思いますけれどね。町づくりにしても、神戸のファッションか何のファッションか分からないものが、神戸にたくさん出て来て、本当に神戸を愛する人たちが果してあいう町づくりを喜こんで見ているのだろうか、神戸らしさが薄れて行くのではないだろうか、何か疑いを持つんですが。ただ、そうはいいいながら、片一方で思わないところで、思わないブティックが出来て、そういうものが町の所々に点々とあるのは楽しいですね。

芹沢 ファッションに通ずる都市の美化ということ、これは早急にやっていただきたいですね。徹底して綺麗にして欲しいですね。美しい町で、楽しいムードで買物が出来るようにするためには、まず町を綺麗にすることで。よく聞くことですが、外国で買ったものをこちらで着たら派手すぎるという。これはむこうの雰囲気があるというものを着ても平気なんであつて、日本だと全然場違いになってしまう。町の雰囲気によって着れるし、うつるわけですね。

砂川 そういうものでも着られる美しい町づくりが必要なんですね。

芹沢 そういうことですね。いいムードのところでいいものを着て、初めてそれが一段と引き立って来るんですよ。ゴミゴミとしたところで着ると、それが一流のファッションであっても冴えて来ませんよ。

★いいものしか売れない神戸

芹沢 私たちは真似物は売っていません。よそでいいからといって、それを真似してやることは絶対にやっておられません。自分たちで苦労して独自のなものを見つけ来て初めてそれを展開してお客さまに紹介しているわけですからね。だから、東京や大阪でやっていることは何とも思っていないですよ。自分たちが確かな眼で見選

んでこれを紹介しているわけなんです。私たち、出先を持っていきますけれど、たとえば神戸の場合、三店ありますが、この三店が各々特色を持った商品を扱いますが商品はないわけですね。特色つけてやっているわけですね。そういう形でやっていますから、決してよそさんがやっているからうちもやろうとかというのではないですね。

芹沢 東京とか大阪と比べて神戸の場合は、量は少ないですね。そのかわり一番確かなものが売れますね。真似物は、神戸では売れませんね。東京地区で企画をしたものがそのまま神戸で売れるとは限りません。神戸で企画したものであれば、まず東京でも売れる。それだけ、より確かなものが神戸のお客さまにはあるのじゃないでしょうか。

松谷 まず、カラーが全然違いますね。神戸は緑があり空気が綺麗だということで、カラフルなものが冴えて見える環境にありますから比較的鮮度のいいものが売れますね。東京は最近は大分よくなりましたが、スモッグで非常に暗いムードです。だから東京ファッションというとかかしらグレー系統のシックリしたのが非常に多い。シックリしたものがファッションだと、流行だと思われませんか。東京の商品を神戸へ持って来ても売れないですね。東京からも仕入れてますけれど、神戸に合うものを引っ張り出して来ないと売れないですね。神戸と東京との違いは非常に大きく出ていますね。大阪はとにかく新しいものさえ持って行けば売れますね。そんな感じですね。

菅原 東京とか大阪とか、特に大阪の場合は、流行でさえあれば、自分にうつろうがうつるまいがあまり関係ないですね。また、アラ、これ素敵ね、って必ずとびついて来るのは東京ですね。

砂川 最近は大阪の方でも神戸へ買物にみえるのが多くなつたんじゃないですか。

菅原 昔から、大阪、京都のお客さまは多いですよ。

芹沢 マス・ファッションは東京にもあるし大阪でもいいし、それに大都市の場合の購買者はその土地の人より

もよその人が多いのじゃないですか。特に東京は。ですから生っ粋の東京の人はあんなんじゃないと思いますけども東京のファッションとか、大阪のお客さまの好みというものはどうも都会的ではない。そういう意味では神戸が一番洗練されている。何故かというとなんか神戸の人たちだけで神戸の町はつくられている。だから大都市に比べて人が少ない。そういうところが洗練されているという意味合いじゃないでしょうか。

菅原 いいものじゃないと売れませんからね。

松谷 業者の方でも、古くから神戸で商売をされていらっしゃる方は何か一つの哲学を持っていますね。神戸のファッションとはこういうもので、こういう行き方をしなかつたら神戸はダメなんだという考えをちゃんと持って商売をしています。今、新しく出来ている店は、売れるものを捜して来て売るといって、そういう傾向が出ているから余計に町は混乱して来るといって。個性が全くないからね。そのへん、我々業者はシックリとした考えを持たないと、神戸の業者は変な風にいがんでしまうと思いますね。

砂川 東京の人は神戸に憧れを持っているんです。遠くから神戸を眺めるときには、日本の町でありながらちよつとパタ臭くてイメージが違うんですね。それで、そこへ行けば何か得られるという夢を持っていらつしやる。それをこわさないように、これからの神戸はもっと力を入れていかないといけないですね。

松谷 また、神戸のよさをもっとPRしないといけないですね。もっとサービスというものを力を入れないと。

菅原 うちはお客さまにも地方の方が多いんですよ。この間も栃木の方がみえて、どうして神戸へ買物にいらつしたんですか、東京の方が近いのに、って聞くと、京都に観光に来たら買物は神戸ですということになっていとおつしやるんですよ。買物は神戸で、ということが行き渡っているらしいですね。

私たちは新しいものを紹介する役目を持っているわけ

で、グッと落ち着いたエレガンスなものから、グッとヤングに向くジーンズとか、あらゆるものを店を別けて紹介しているわけなんです。

砂川 これからの方向は、売ったものを生かす場所が必要になってくると思いますね。たとえば、女らしさというのを強調してロングが出て、それを着る機会がないという声をよく聞くんです。一年に一回や二回のパーティのためにというのじゃなくて、神戸ぐらいの町で、おシャレタイムというものがあつまして、夕方から七時八時頃までそういう洋服を着て町を歩いているとか、どこか訪問していいとか、あるいは食事をしに行こうとかそういう町が出来たらいいなあと 생각합니다。ファッションは生きていなければいけませんからね。

荊原 それは逆にいうと、神戸の方はそれだけセンスがいいということですね。東京だとロングが流行ると昼日中からあれを来て百貨店に買物に来ているんですよ。この人たちはこれが流行だからということでは着ているわけでは。ところが、神戸のお客さまはそういうものは昼日中から着て買物に行くものじゃないということをご存知なんです。それだけセンスがいいわけですね。流行に対して厳しい眼をお持ちなんです。だから一層それらしい場が欲しいわけなんです。だから一流のホテルが出来るのは結構なことですよ。どんどん建てて競争してもらって、お互いに雰囲気づくりをして貰わないとね。

芹沢 デイナー・パーティーなんかは神戸よりも、むしろ大阪へ行く場合が多いみたいですね。

荊原 我々ファッションをリードして行く者には、ファッションの見せ場ともなるダイナー・パーティの機会をつくってさしあげて、そういうロングなどを着て楽しんでいただく責任があるわけですね。

砂川 本当に切実に感じますね。やってよかったという楽しい催しをね。

荊原 ただ、ホテルにしても神戸にはいいムードを満たすところがないんですね。

砂川 神戸はファッション都市でありながらそういう基盤がないんですね。

荊原 ぼつぼつ、ロングでも着て楽しみに行くこうかというムードをつくって行きたいと思うんですが。

★ショッピングにもゆとりが欲しい

荊原 昔は貿易でも神戸が一番だったんですけどね。今は横浜でも大阪でも間に合いますね。ポートアイランドを生かすためにも空港が必要ですね。それに付随して初めて生きて来るわけです。あそこまで買物に行くのだったらよくよくあそこへ引きつける何かをつくらないことにはダメですが、空港が出来たらその引き続きで放っておいても人は行きますよ。神戸経済の地盤の沈下を盛り返すにはどうしてもそういうものが要なんですよ。

芹沢 話は変わりますが、この十月にまたファッション・フェアをやるということですね。目の前に迫って来たからポツポツやらないかなあということなんです。昨年のファッション・フェアが終った時点の反省会とともに、これは一年間の継続的なものと考えて、色々検討をして次のファッション・フェアを迎えなければいけない、だから来年はもっともっと早くから構想を練らなければいけないということをお互いに出し合っているんです。神戸商工会議所のなかのファッション都市懇談会とファッション・フェアをかみ合わせなければあまり意味がないのじゃないか、このフェアはファッション都市のなかのごく一パーツにすぎない、これに出品する業者が単に出品するだけで終わったらファッション都市づくりのなかの一部でありながら、まったく関連性のない行事としてとらえられてしまう、だからもっとディスカッションしながら、今度のフェアはこうあるべきだ、じゃ、そのように協力しよう、という話し合いが必要なんです。それがまったくないんですよ。無駄な金を使って線香花火を上げてしまっている感じが非常に強いんですね。出品店をみますと百貨店が四つ、あとKFAとかK

FK、KFC。百貨店の場合は担当者が変わって行くわけですね。ところが我々専門店の場合は地元の出身で地元で本業をしている者ばかりですね。そうすると取り組み方も違って来るわけですよ。ただ悲しいかな金がないというところがネックで、ファッション・フェアが何か寄せ集めで、テーマもなければ何もいまま三年が終ってしまっただけですね。これからはそういうファッション・フェアであってはいけない。もっともって神戸らしいものにテーマをしぼってやって行くべきだと思いますね。

砂川 神戸のファッション・フェアには東京からも見に来るような、そういうようなものが欲しいですね。

菅原 そういう独創的なものを専門店が盛り上げて行かなかつたらダメですね。

松谷 センタープラザ、サンプラザのようなこれからのビルにはみんなが使える場というものを必ず入れないとそのビルは発展しませんね。そういうものが神戸には抜けていますね。これでもかこれでもかという位に売り場にして行くわけですね。そんなことではビルは栄えないと思いますね。これからは、売らんかな、を表に出したらダメですね。楽しみながら買って貰うという、そういう場所づくりをしないとダメだと思いますね。そういう点で、文化と経済とはこれからはつきものです。経済だけではダメですね。うまく組み合わせてもって行かないとダメですね。これは世界的な傾向です。いいファッションはゆとりのなから生まれるんですよ。ガツガツしていたらいいファッションは生まれませんよ。

芹沢 建物にもそういう「無駄」が必要だし、生活でもそうですね。

菅原 町も建物もそうだし、店自体もそうなって行かなければ嘘でしょうね。楽しく買物をしていただくムードが日本の店には欠けていますね。

松谷 町のなかなかを楽しく生かすということは日本人は下手ですね。

砂川 それと商店数のバランスも考えなければいけないでしょうね。ヤングの店と高級品の店が、妥協してしまつて何がいいのか悪いのか分からない。分からないままにみんな買物をやたらとしているという傾向に走りやすいでしょう。これは店をつくる人たちの責任ですし、話し合いが必要ですね。

松谷 それと夜の十二時頃までウインドウ・ショッピングが出来るようにしたいですね。

砂川 それはこれから率先してやらなければならぬことですね。

菅原 ウインドウに電気がついていけると町も明るくなるし表を通る人もチョット見れるという楽しさがありますね。そういうことが欠けてしまっているんです。自分だけよかつたらいいという考え方でやって貰うと町はよくなりませんよ。それとセンター街や元町もそうなんです、みんな店の表の造りが同じなんです。店が違って、商品が違っているのに「顔」が同じということはないはずですよ。一軒が大理石を張ると何軒も続いて大理石を張ったりする。各店主がもう少しよく考えて、置く商品にふさわしい店の構えを考えないとイケませんね。芹沢 市街地改造ビルはそれが宿命かも知れませんが。それとアーケードの問題ですね。青空が見えて欲しいですね。

菅原 あれは取ってしまった方がいいとイケないですね。あつてもいいですけど、あれは真中が開けられるようになっていんですよ。だから、せめて天気の日ぐらいいは開け放して自然の光を入れてくれたらいいんですがね。

砂川 それと残念なのは、まだ道幅が足りないことですね。ウイーンなんかは綺麗ですね。せめてあれば近いだけのゆとりと雰囲気欲しいですね。そうなれば神戸は日本一のファッション都市になると思います。

(オリエンタルホテルにて)

ウシオ工業株

取締役社長 牛尾吉朗
神戸市葺合区浜辺通5丁目2の1
神戸商工貿易センタービル18F
TEL(078) 251-1651(代)

田崎真珠株

取締役社長 田崎俊作
神戸市葺合区旗塚通6の3の10
TEL(078) 231-3321

オールスタイル株

取締役社長 川上勉
神戸市生田区伊藤町121
TEL(078) 321-2111

株ワールド

会長 木口衛
神戸市葺合区八幡通3丁目1の12
TEL(078) 251-5311

カネボウベルエイシー株

取締役社長 稲岡必三
神戸市生田区三宮町1丁目43番地
TEL(078) 332-3155

株ベニヤ

取締役社長 松谷富士男
神戸市生田区三宮町1丁目54
TEL(078) 332-3155

モロゾフ株

取締役社長 葛野友太郎
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号
TEL(078) 851-1594

入船株

取締役社長 小泉進吉
神戸市灘区新在家北町1丁目1-19
(阪神電鉄新在家南) プリコビル3F
TEL(078) 851-3191

神戸地下街株

さんちかタウン・サンこうべ
神戸市生田区三宮町1丁目1
交通センタービル8F
TEL(078) 391-4024(代)



キャンペーン「ファッション都市神戸を考える」の
企画は以上9社の提供によるものです。

★神戸の催し物ご案内

7月

★音楽

★ポインターシスターズ
10日(土) 6時半 神戸文化大ホール S・三〇〇〇円 A・一五〇〇円 B・二〇〇〇円

★大川策策

12日(日) 6時半 神戸文化大ホール 民音・一五〇〇円

★ウィーンの森少年合唱団演奏会

14日(水) 6時半 神戸国際会館 S・二五〇〇円 A・二〇〇〇円 B・一五〇〇円

★シャノンフェスティバル

〔パリ祭〕



堀 郁子

14日(水) 6時 神戸文化大ホール 一五〇〇円

★オールスター・ジャズ・パトール

16日(金) 7時 神戸文化大ホール S・三〇〇〇円 A・二五〇〇円 B・二〇〇〇円 C・一五〇〇円

★金子マリ&バックスバニー

16日(金) 4時 神戸ヤマハ5F 整理券

★トゥッピオ・サントス

17日(土) 6時半 神戸文化大ホール S・二五〇〇円 A・二〇〇〇円 B・一五〇〇円

★神戸っ子愛読者20名様ご招待!

〔百笑寄席〕 納涼落語会
(7月31日(土) 6時半) 三宮 農業会館 主催(柳笑亭)



桂 米朝

出演/松福亭松鶴・桂米朝・桂枝雀・笑福亭枝鶴・桂春蝶・林家栄二・桂文太。ご希望の方は「落語会係」まで。また前売券もあります。一〇〇〇円。

★市民コンサート

17日(土) 6時 神戸文化小ホール 無料
★8・8ロククデー
東中国ジュニア大会

18日(日) 1時 ヤマハ神戸センター 前売・四〇〇円

★ペドロ&カブリシャス

25日(日) ①2時 ②5時 神戸文化大ホール 二〇〇〇円

★神戸士魂合唱団

25日(日) 2時 神戸文化大ホール 二〇〇〇円

★グレンミラ

26日(月) 6時半 神戸文化大ホール 民音/会員・二〇〇〇円 一般・一六〇〇円

★イルカ

26日(月) 2時半 青屋ルナホール 二〇〇〇円

★布施明



布施 明

28日(水) ①2時 ②6時 神戸文化大ホール S・四〇〇〇円 A・三〇〇〇円 B・二五〇〇円

★KMPフルバンドコンサート

28日(水) 5時 ヤマハ神戸センター 一五〇〇円

★演劇

★民芸(リリオム)

7日(水) 7・10日(土) 12日(月) 6時15分 11日(日) 1時半 神戸文化大ホール 労演・一六〇〇円

★劇団七「銀河鉄道の恋人達」

7日(水) 8日(木) 6時 神戸文化小ホール 八〇〇円

★劇団ひまわり

「とうせんぼタワー」
26日(月) ①1時半 ②4時 神戸文化大ホール 無料

★道化座(盲導犬)

3・10・17・24日(土) 7時
4・11・18・25日(日) 2時
道化座のいえホール
★ミュージカル「山彦ものがたり」



宮城まり子(左)と松山省二

30日(金) 10時半 神戸文化大ホール A・一五〇〇円 B・一三〇〇円 C・一〇〇〇円
脚本演出/有吉佐和子 出演/宮城まり子・松山省二ほか

★ぬいぐるみ人形劇

「巨匠の大冒険」

29日(木) 30日(金) ①10時半 ②1時半 神戸国際会館
31日(土) ①10時半 ②1時半 神戸文化大ホール 前売/A・一三〇〇円 B・一〇〇〇円 C・七〇〇円

★その他

★映画「乞食大将」

9日(金) ①1時半 ②5時半 ③5時50分 神戸文化小ホール 無料

★市民映画劇場「砂漠の流れ者」

14日(水) 7・19日(金) 6時半 神戸文化小ホール 四〇〇円

★桂小文枝独演会

19日(月) 6時半 神戸文化大ホール 民音・八〇〇円

★76洋舞合同公演

24日(土) 6時 神戸文化大ホール 七〇〇円

★桂米朝独演会

24日(土) ①2時半 ②6時半 神戸文化大ホール 一〇〇〇円

●愛読者優待席

神戸っ子読者に在記のステージを割り優待致します。

★松竹大歌舞伎



8月8日(日) ①12時 ②5時 神戸国際会館

演出/梶原平三 登石切・お目見得 口上・松浦の太鼓・京鹿子娘道成寺

出演/松本幸四郎・中村雀右衛門 河原崎権十郎・中村吉右衛門ほか S・三三〇〇円を三〇〇〇円、A・二二〇〇円を二〇〇〇円、B・一〇〇〇円を九〇〇円に割引。

★ずらとるび

8月21日(土) ①2時 ②5時 A・二五〇〇円 B・二〇〇〇円 をそれぞれ二〇〇円引。

★ロス・インディオス・タバラス



9月10日(金) 6時半 神戸国際会館

S・二八〇〇円 A・二四〇〇円 B・二〇〇〇円 C・一五〇〇円 をそれぞれ一割引。

ご希望の方は電話かハガキで神戸っ子編集室へ優待係(八川綾)まで

ヨーロッパ輸入雑貨の芦屋の三番館が
 ティーサロン&ヨーロッパ輸入インテリア雑貨のスーパー
 異人館の北野店を7月3日にオープン

〈開店記念——全館2割引〉



〈三番館 北野店〉

北野店

神戸市生田区山本通2丁目

ヨーロッパ輸入
 インテリア雑貨

&

ティースロン

TEL (078) 242-4082

芦屋店

国鉄芦屋駅北側

ヨーロッパ輸入
 雑貨

&

レストラン

TEL (0797) 32-4320・4340

三番館

大和田 隆夫

北野の小径

北野の静かな散歩道にゆったりとしたたたずまいをみせる異人館スタデニック邸でヨーロッパ輸入インテリア雑貨&ティースロンの店「三番館」が誕生。わずかに残った異人館。その二階の窓からミナトを見おろせば、なつかしい川西英さんの初期の版画の世界、エキゾチックな神戸の街がひらける。



お買物の方への駐車場完備



幼児歯科 小児歯科

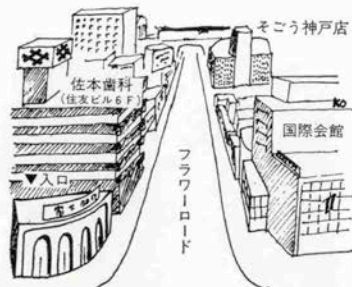
SAMOTO PEDIATRIC DENTISTRY

佐本小児歯科

母親教室

(初診日) 火曜日 午前9時30分
金曜日 午後1時30分
(木曜日は休診)

そごう前センター街東角・さんちか入口
住友銀行三宮ビル6階
〒650 生田区加納町5丁目39
TEL (078)331-6302~3



こんにちは赤ちゃん



北浦 良くん / 吹田市竹見台

完全看護★冷暖房完備★病院前駐車可能

芦屋 柿沼産婦人科



芦屋市大柁町1番18号
国道芦屋川電停東50米(明治生命南)
☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表